

緑生擁壁

※宅地造成等規制法施工令第15条に基づく大臣認定擁壁



特長・ポイント

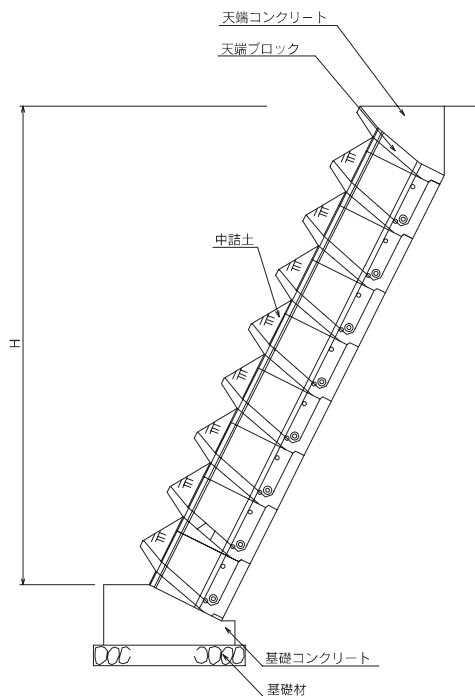
● 胴込めコンクリートを打設するため練積み擁壁となり下記設計基準で御使用できます。

無筋練積みコンクリート擁壁	H=3.0m未満。切土部や緩勾配及び高さの低い場合。
鉄筋コンクリート擁壁	H=3.0m以上を標準とするが、急勾配擁壁や、盛土壁又大きい土圧や法面崩壊等の恐れがある場合は低いものでも採用します。

- 胴込めコンクリート内に鉄筋を入れる事により鉄筋コンクリート擁壁構造となり更に5m以上の高擁壁が構築できます。
- 配力鉄筋により胴込めコンクリートと緑生ブロックとが完全一体化して強固な梁を構築します。そして、土圧、不等沈下、地震に耐えます。
- 段積み型緑化ブロックの欠点である裏込砕石を使用しないので、堆肥土やブロック内の土砂が雨により裏込砕石内に流出してしまう空洞化現象や、樹木の根が裏込砕石により遮断される心配がありません。
- 製品据付け後中詰土の投入が行えるので、各段の据付け毎の土砂充填作業を必要とする他の緑化ブロックに比べ施工性・経済性が格段に良くなります。
- ブロック内の目地離れがなく、中詰め土の流出がありません。

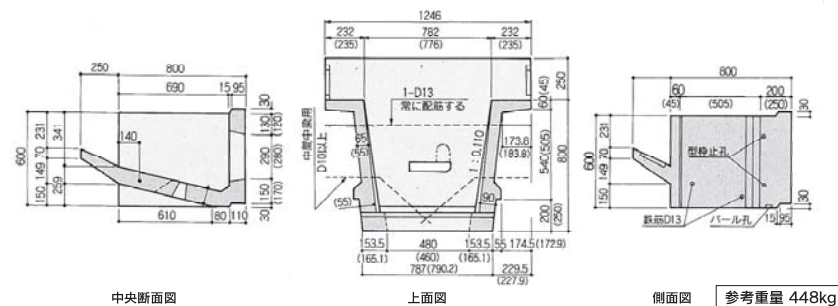
※現場条件にあわせて設計いたします。

標準施工断面図

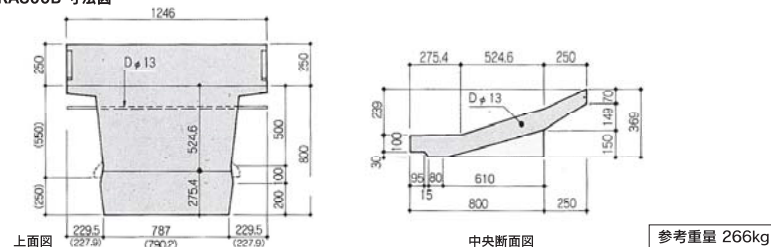


製品寸法図

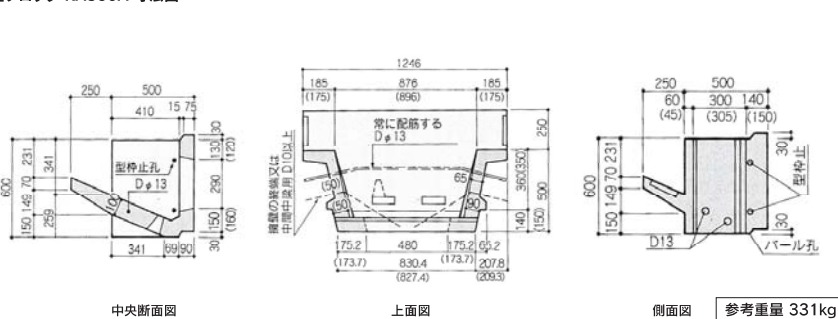
緑生ブロック RA800A 寸法図



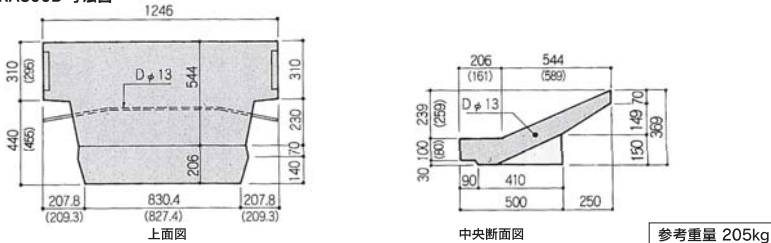
天端ブロック RA800B 寸法図



緑生ブロック RA500A 寸法図



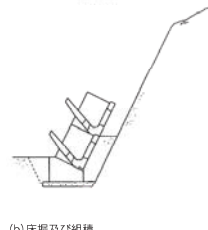
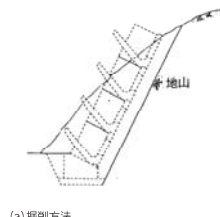
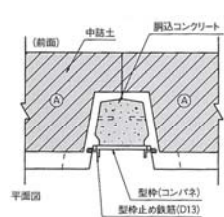
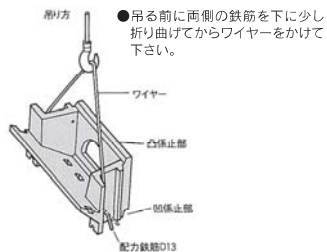
天端ブロック RA500B 寸法図



● 施工手順

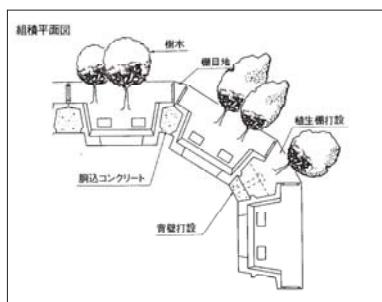
① 床掘り法面掘削	下図参照
② 基礎コンクリート打設	鉄筋を入れる場合はセットする。
③ 1段目ブロック据付け	下部後端に調整モルタルを充填する。
④ 裏型枠取付け	鉄筋D13×200mm程度の長さのもの4本/個使用(下図参照)
⑤ 胴込めコンクリート打設	σ28=210kg/cm ²
⑥ 背面土の埋戻し	
⑦ 2段目ブロック据付け	④⑤⑥の順にくりかえし施工します。

※胴込めコンクリートは側壁うしろまで打設する場合があります。

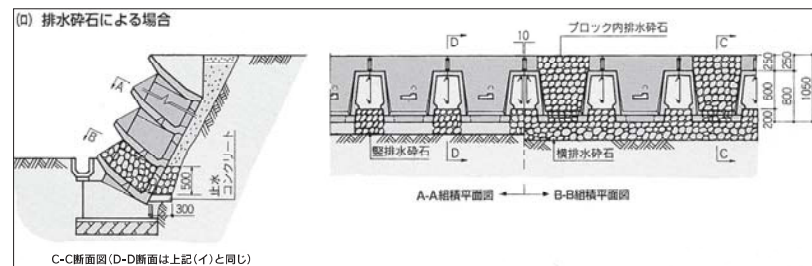
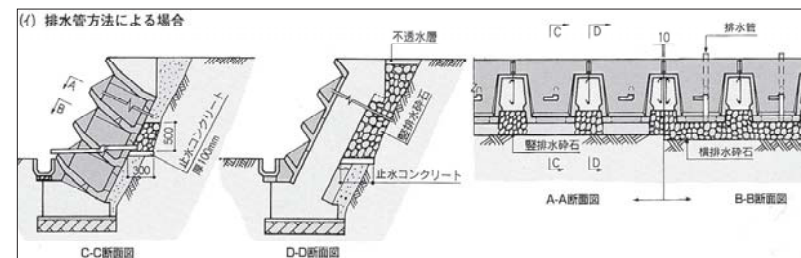


● 擁壁の曲線部施工

- 擁壁の高さ方向の曲線部の調整は胴込めコンクリート及び柵目地で調整しますので自由な曲線も可能です。
- 柵目地が大きく広がる場合は、左右背壁を連結すると共に、植生柵を柵の部分まで広げて、植生のスペースを十分に確保して下さい。



● 排水方法施工例



認定書

